新型コロナウイルス COVID-19

OWCC 中川和道　20200412

機関紙部長大西清見さんのご依頼にそって、新型コロナウイルスを生物学・科学の大局からみて、アメリカ、ヨーロッパなどと比較してみよう。学会などで学んだところ[1,2,3]では、(1)人間に有害なウイルスは1%のみ[1]、(2)ウイルスは生物界全体と共存していて互いに変容しつつ動的なバランスをとって、持ちつ持たれつで、世界を保っている[2]、(3)細胞はウイルスを「好意的」に迎え入れるように見える、生物にとっての利益は例えば、ウイルス遺伝子の注入による生命の進化かもしれないと考える研究者も多い[1,2,3]。ウイルスも含めみんなが共生してきた地球で、人類は天然痘ウイルスを絶滅させてしまった。未知のしっぺ返しが怖いという疫学研究者も少なくない。

SARS も MERS もコロナウイルスだから発見時点では毎回「新型」だ。COVID-19 がいい。2020 年 4 月時点でワクチンも治療薬もない。SARS にひどくやられた韓国は教訓として検査体制を拡充し備えていた。日本の被害は韓国よりは軽かったせいか予算は採択されず、国会で質問に上がっていた（田村議員）。大阪でも 24 あった保健所が 1 に減らされたという（高橋明代さん情報）。

米国スパイは中国で 12 月上旬にこの肺炎を察知[4]。死の前に訴えた医師を処分し事実を抑え込んだ中国に米国は入国制限をつきつけた。トランプ大統領は「中国は隠した遅らせた」というが、中国は 1 月 12 日にこのウイルスのゲノムを公開[4]、WHO に渡した。人-人感染へのウイルス変容が分かったのが 12 月下旬だからさほど遅くはなく、中国でも医者はえらいと中川は思う。WHO は 1 月 17 日に今の検査手法を認定、世界に交付した。アメリカはここで失敗[4]。WHO の手法ではない独自の検査手法を作ろうとした。全国配布した検査キットは極めて不完全で、気づかぬうちに広く蔓延して今の惨状になった[4]。CDC ともあろうものが、と中川は驚いた。スパイ情報でかせいだ貴重な時間を「大したことはない」という楽観論で浪費したつけは大きいとの見方もある[4]。

上記(1)：このウイルスは何かの動物と平穏に共生していたのだろう[2]。エボラもそうだったはずだ。その動物をある人々が勝手に?引きずり出して、人類にウイルスをまきちらした。「野生動物を食べる楽しみ」というのだ。ヒトという新規宿主にとまどうウイルスは必死に変容を試みる。当初は一般に強毒であるが弱毒化変容しついには宿主に鼻水程度で落着き、社会（人口の 7-8 割）に共生する。1918 年パンデミックした H1N1 亜型インフル、「スペイン風邪」[5,6]は変容の過程で一時強毒化した。世界人口 20 億人のうち感染 5 億人死者 5000 万人から 1 億人とも[6]。人口 5500 万人の日本では 1918 年 8 月から 21 年 8 月まで 3 年がかり 3 波の大流行で感染 2380 万人死者 39 万人との内務省まとめ[6]。この教訓から「パンデミックではまず医療者に予防ワクチンと治療薬を投与する」という原則に至った。ところがワクチンも治療薬もない COVID-19 をある人々が引きずり出してしまった。別目的の薬と、米国開発[7]のワクチン 1 年後認可に期待しよう。3 年はいやだ。

放射線環境科学の講義をしていた中川は、思う。福島原発事故の時は浴びた or 浴びてないがはっきりしていたがゆえに毒だとかバイ菌だとかいうひどい差別が生まれた。今回のウイルスは検出できない感染者が明らかに多いがゆえに、全国民が「自分はすでに感染者」と思える状況が近い。みんな平等だ。だのにマスクは買い占められ、せき込む患者さんを診る医療者にマスクがない。医療者やそのご家族をバイ菌扱いし保育所にあの子が来ると困るというその心情こそ、本当に困る。

社会に軟着陸する途中で戸惑い強毒で暴れまわるウイルスによる重症化患者の発生と医療崩壊は絶対に避けなければならない。私たちは未曽有の国民的課題に直面していると中川はつよく思う。

[1]朝日新聞 4/6 科学欄 松浦義治　[2]朝 2/21 神里達博　[3]朝デジ有料版 4/3 福岡伸一
[4]朝日 3/30　[5]朝日 2/23　[6]ウィキペディア「スペインかぜ」　[7] 朝日 3/17